

37:1 さて、ヤコブは父の寄留の地、カナンの地に住んでいた。

37:2 これはヤコブの歴史である。ヨセフは十七歳のとき、兄たちとともに羊の群れを飼っていた。彼はまだ手伝いで、父の妻ビルハの子らやジルバの子らとともにいた。ヨセフは彼らの悪い噂を彼らの父に告げた。

37:3 イスラエルは、息子たちのだれよりもヨセフを愛していた。ヨセフが年寄り子だったからである。それで彼はヨセフに、あや織りの長服を作ってやっていた。

37:4 ヨセフの兄たちは、父が兄弟たちのだれよりも彼を愛しているのを見て、彼を憎み、穏やかに話すことができなかった。

37:5 さて、ヨセフは夢を見て、それを兄たちに告げた。すると彼らは、ますます彼を憎むようになった。

37:6 ヨセフは彼らに言った。「私が見たこの夢について聞いてください。

37:7 見ると、私たちは畑で束を作っていました。すると突然、私の束が起き上がり、まっすぐに立ちました。そしてなんと、兄さんたちの束が周りに来て、私の束を伏し拝んだのです。」

37:8 兄たちは彼に言った。「おまえが私たちを治める王になるというのか。私たちを支配するというのか。」彼らは、夢や彼のことばのことで、ますます彼を憎むようになった。

37:9 再びヨセフは別の夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また夢を見ました。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいました」と言った。

37:10 ヨセフが父や兄たちに話すと、父は彼を叱って言った。「いったい何なのだ、おま

えの見た夢は。私や、おまえの母さん、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むというのか。」

37:11 兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心にとどめていた。

37:12 その後、兄たちは、シェケムで父の羊の群れを世話するために出かけて行った。

37:13 イスラエルはヨセフに言った。「おまえの兄さんたちは、シェケムで群れの世話をしている。さあ、兄さんたちのところに使いに行ってもらいたい。」ヨセフは答えた。「はい、参ります。」

37:14 父は言った。「さあ、行って、兄さんたちが無事かどうか、羊の群れが無事かどうかを見て、その様子を私に知らせておくれ。」こうして彼をヘブロン谷から使いに送った。それで彼はシェケムにやって来た。

37:15 彼が野をさまよっていると、一人の人が彼を見かけた。その人は「何を捜しているのですか」と尋ねた。

37:16 ヨセフは言った。「兄たちを捜しています。どこで群れの世話をしているか、どうか教えてください。」

37:17 すると、その人は言った。「ここからは、もう行ってしまいました。私は、あの人たちが『さあ、ドタンの方に行こう』と言っているのを聞きました。」そこでヨセフは兄たちの後を追って行き、ドタンで彼らを見つけた。

ヨセフは17歳でしたが非常に無邪気なところがあり、それゆえ自分が主人公で周囲の気持ちを察することができないという欠点がありました。父から特別扱いされても当たり前に思っていたようです。父ヤコブはそんなと

ころが自分の若い頃と似ていましたし、また亡くなった愛するラケルの子でもありましたので、いっそうヨセフを愛したのでしょうか、それは偏愛でした。

ヤコブもその母リベカから偏愛されていたわけで、そのような親子関係の問題がそのまま子や孫に受け継がれてしまった構図です。そしてそれは息子兄弟たちの憎しみとなって表れてしまいました。

聖書では時に夢が神からの啓示として記されますが、ヨセフの夢には、神からのことばは備わっていません。ヨセフが願望から見た夢を、神様が用いられたというのが一般的解釈です。ヨセフや兄弟たちは主のご計画に用いられましたが、本当の意味でお役に立つようになるまでには、まだ多くの聖めと成長が必要だったのです。

主のご計画を悟りつつ、謙遜になって、お役に立ちつつ用いられる者になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

